



独創は闘いにあり

西澤潤一著

新潮社 1989 (新潮文庫)

ネットワーク情報学部教授 田中 稔

読めば読むほど味のでる本ということで、この本が浮かんできた。平成元年の発行だが、今読んでもこの本の筆者の感慨、思いが伝わってくる。行き詰まった時などにこの本を読むと勇気づけられる。

インターネット社会の現代ではもはや当たり前となっている光通信、その光ファイバーの有効性に初めて気づき、「発明者」として知られている西澤潤一東北大学名誉教授。そのほかにも発光ダイオードなど数えきれないほどの発明があり、未完のノーベル賞候補といわれ続けてきた。この本は彼の半生を綴ったものであるが、独創的な仕事を行う苦悩、闘いなどが良く伝わってくる。さらに所々で引用される語句や言葉が印象的である。「愚直一徹、大道無門」、「自分をごまかさないという一点で、私は確かにかなりの頑固者である」、「頭をいじめぬいたからこそ、“頭が強くなった”等々。

どうやら、「独創」に必要なのは秀才が持つ「賢い頭」ではなく、自分をごまかさない「強い頭」らしい。そして常に問題意識を持つこと。

その他の推薦図書

統計学を拓いた異才たち

— 経験則から科学へ進展した一世紀 —

デイヴィッド・サルツブルグ著 竹内恵行 熊谷悦生訳
日本経済新聞出版社 2010 (日経ビジネス人文庫)

数理統計学の歴史的な流れ、思想の変遷がわかる。

フェルマーの最終定理

サイモン・シン著 青木薫訳
新潮社 2006 (新潮文庫)

数学の定理を証明することの大変さがリアルに感じられる。

国家の品格

藤原正彦著
新潮社 2005 (新潮新書)

数学者でもある著者の一種独特な考え方に共感するところが多い。

持続力

山本博著
講談社 2006 (講談社+a新書)

日本アーチェリー界のカリスマもこんなに努力をしていた。